

2020年 8月 31日

青バッチの子どもたちの「特別体験日」の中、キャンプファイヤーの熱気が静まると、周囲でしきりに虫の鳴き声が響いているのに気がつきました。

昼間の猛暑に変わりはなくとも、・・・「目にはさやかに見えねども」すでに秋がやってきているのですわ。

昨年もどこかで紹介させていただきましたが、秋の気配を感じると、「ぞうさん」の詞の作者まどみちおさんの「太陽と地球」の詩を口ずさみたくになります。

まだ若かったころのこと 太陽は 気がつきまして  
わが子地球について  
ひとつだけ どうしても 知ることができないことがあるのを……

それは地球の夜です  
地球の夜に  
どうか安らかな眠りがありますように  
どうか幸せな夢があふれますように  
祈りをこめて 太陽は 地球のそばに 月をつかわしました  
地球の夜を見守らせるために  
美しくやさしい 光をあてて

今では もう 若いとも いえませんが  
太陽は 忘れたことがありません  
地球の寝顔を どんなに 安らかであるか  
夜とおし 月に 聞くことを……

この詩のタイトルは「太陽と月と地球と」でもいいのかなとも思います。

見えないところで営まれていること・・・目の前のやりとりだけでは収まりきらない気持ち・・・見えている出来事の背後で生まれていること・・・と、昼間の目覚めた生活の尺度や価値だけでは語り尽せない。様々な感情や現実には、空を見上げたくなる季節を迎えると 毎年あらためて気づくのかもかもしれません。

明日より 長月9月、昼間たくさん体験、出会い、発見、創造・・・がありますように！ そして同時に、大きな見守りの中で、それらを静かに 夢見、味わい、身体の内深くへと忘却することができますように！

確かに おひさまに託されたのでしょう。半分くらいのお月さまが、時折雲から顔をのぞかしては、ファイヤーを楽しむ子どもたちを そっと見守ってくれていました。

2学期もどうぞよろしくお願いします。

園長 弁光 泰雄